

日本蹴球協会機関紙

# SOCCER

VOL. 2, No. 2



THE FOOTBALL  
ASSOCIATION  
OF JAPAN

寫真説明

前列右から  
近藤、種田、木下、宮田、津田、岡村、和田、松原、鶴田、賀川の各選手  
後列、加藤



目次

初の天皇杯慶大に輝く……………二

一回戦……………四

二回戦……………三

準決勝……………九

三位決定戦……………三

決勝戦……………四

田邊製薬堂々の連勝……………六

一回戦……………六

二回戦……………七

準決勝……………三

決勝戦……………三

お断り……………四

欲しい品位ある試合態度

— 第四回實業國大會雜感

大谷四郎……………五

第三十一回全日本選手権大會  
第四回全國實業團選手権大會 特集號

表紙説明

第四回全國實業團決勝戦田邊製薬對日立本社後半3分田辺左コーナーキックからまさにゴールを擧げるかに見えたが、日立CH堀口はヘディングで美事にピンチを救った。

黒のユニフォーム、右から西田(RH)高橋(RI)堀口(CH)林(LF)の日立本社、白、右から賀川(RI)鶴田(RW)顔半分)の田辺製薬各選手

# 初の天皇杯慶大に輝く

## 十一年り振の制覇、津田二宮拔群の殊勳

第三十一次全日本選手権大會は、はじめて天皇杯がかけられて、五月二十四、五、六、七の四日間新装なつた宮城縣營宮城野蹴球場で舉行された。

本年の大會は、昨年八月の全國評議員會の決定により全國十地域協會からの豫選を経た代表チームと、日本蹴球協會の推薦による四チーム計十四チームにより行われることになり、日本蹴球協會では、四月一日の西宮球場に於ける理事會で、全関西學院、慶應大學、早稻田大學及び仙臺サッカークラブの四チームを推薦することに決定即日發表した。

推薦の理由は次の通りであつた。  
全関西學院 昨年度この大會の優勝チーム

は堂々たる威容を誇ることが出来た。  
球場はタツチラインに沿つて兩側に土盛りスタンドがあり、正面側中央はコンクリート打の固定席の他、貴賓、新聞記者、放送関係者席等も整い、總收容人員約七千、グラウンドは芝生で、これが完成の曉は正に日本一のものになるであろうと考えられる。

この建設には、地元協會々長の藤崎三郎助氏及び佐藤秀臣、岡大門氏等の協會関係者の他、縣渉外局長河野氏、常松保健體育課長、市毛同係長等の諸兄の力にまつところが多く、蹴球関係者一同が感謝を捧げなければならぬものである。

一方全國各豫選地では、三月下旬から着々準備を進めて来たが、おけても全國一の激戦地関東地区では、戦後二度制覇している東大L.B.、大學リーグの強豪立教大學、教育大學、明治大學、クラブチームの異色東京蹴球團等が入りまじつての争奪の結果、新鋭全立大が東大L.B.に快勝して代表権を獲得した他、各地とも順調にスケデウルが進められ、暗の代表十四チームにより五月二十

慶應大學 同第二位並大學リーグ二位及び朝日

招待に於ける實績

早稻田大學 関東大學リーグ一位、學生王座戰

一位

仙臺サッカー 第五回國體に於ける實績

なお、大阪クラブは昨年國體第一位であつたが今回出場を豫想される同クラブの内容が昨年と必ずしも同様でないことと、同クラブから辞退の申出があり、推薦チームに加わらないことになつたものである。

一方仙臺では新球場建設の方針は決定していたものの、その後の計畫が進まないため一時は開催も危ぶまれる状態になつたが、十二月下旬からの突貫工事が美事に奏功して、大會期日一週間前に

四日の開會式から愈々大會の火蓋が切られた。

ところで前年度優勝の全関西學院が昨年度獲得の會長杯、朝日杯を當然開會式で返還する責任を有しながら一人も顔を見せなかつただけでなく、開會式の際にも三位賞を受けるべく一人もグラウンドに姿を見せなかつたのはどうかと思つた。大阪クラブも入場式に参加しなかつたが、盜難事故等があつたとはいへ、これも同様將來は御めんを蒙りたい事だ、なお立教大學は全員揃つていたにもかゝらず入場行進には申譯だけに五、六人参加させたがこのようなことではゲームに勝ち抜くなどは思いも寄らぬであろうし、勝つたところで自慢になるまい、どうかひとなみにつきあつて欲しいものだ。

さて大會は四日間快晴に恵まれて順調に運ばれて行つたが、全關學が第一戦にエース鴛田が左足首に脱臼の事故を、第二戦には天下一品のカンを持つ工藤の負傷の他、杉本、長沼と何れも故障で戦列をはなれ、辛くも仙臺を退けて三位にとゞまつたのは氣の毒の一言につきた。

早大WMWはラインアップ編成の誤算で地元ファンを喜ばせ準々決勝で姿を消したのは物足りぬ感を與えた。全立大もOB二宮の奮戦甲斐なく十人の慶大BRB(CF鈴木負傷して全然動けず)に敗れたのは残念であつたろうが、このゲームから推して今秋の関東大学リーグが楽しみそうである。岡山、松山は學生チームだが低調の一語につき韭菜、日鐵、札幌クにもさして進歩のあととは

## ◎ 一回戦

### 韭菜實力の勝利

#### 日鐵二瀬善戦して敗る

韭菜クラブ 2  
 1 | 1  
 0 | 0  
 0 | 0  
 日鐵二瀬

自信はないため兩軍のチーム全體としての感想を書いて見度いと思ひます。

先づOBを主體として編成された兩軍チームとしては終始極めて眞面目に斗志に燃えて戦つていたことは甚だ特筆すべきことだと思ひます。次に特に技術面に就いて研究を要することを擧げて一般の水準の向上に役立たせ度いと思ひます。

一、ゴールキックの研究 キーパー自身が味方のFWの位置に就つてやるが必要ですが逆に受取るFWもキーパーの蹴る球に注意をしてゴールキックが敵の逆襲に大きな脅威を與える様にキックすることを研究すること。

二、スローインの研究 ゴールキックと同じ様に試合に大きなチャンスと興え又ピンチを興えるものであるから投げける距離を遠くすることゝ出來るだけ敵に近附くことを研究すること。

三、タツクルの研究 兩軍共にタツクルは足先に頼つており又伸び切つてゐる爲に甚だ弱く次の動作が遅れ勝ちでもつと深くしかも膝からの全力のあるタツクルを研究すること。

見えなかつた。

結核慶大BRB對大阪クラブの決勝戦となり九十分ゲームの後、二十分の延長戦が幸して現役主力の前者に凱歌が上つたのも、大阪クHB陣の窮體から見て當然だつたとも言えよう。

連日にわたり數千の觀衆を動員出來たのは全く地元協會各位の努力の結果であつて、この点では空前の大成功であつた。(宮本)

此の試合はスコアの示す通りの差があつたことは間違いないと思われませんが、私は兩軍のチームを初めて觀たので其の批評が個人に就いてする

以上特に全般に眼立つたことを記したので他に個人々々には善技もあり悪技もあつて批評の餘裕がないがサツカーに絶対必要な諸條件を更に深く研究して走力に於て或は體力に於て優れた力を持つことがOBチームとして難しいことながら日本のサツカーを世界のレベルに迄上げる爲にやらなければならぬことを痛感し敢て老骨に鞭うつて前途の御健斗を祈るや切なり。(津田幸男)

(日鐵二瀬)		(韭菜)	
土崎川	本本田	田田	岡田尾
白山古	山宮栗	林安福	増松
GK	5	CK	5
FB	10	FK	10
HB	16	GK	16
FW	14	Shots	14
侯手沢	村川藤	津田坂田	紫
5	4	7	15
勝川森	奥吉加	新岩宮野	大

襟を正すコーチの悲願

盛岡サッカー玉碎

全立大  $\begin{matrix} 7 \\ 4 \\ 3 \\ 0 \end{matrix}$  |  $\begin{matrix} 0 \\ 0 \end{matrix}$  盛岡サッカー  
 盛岡サッカーは高校の選手を主力とした最年少  
 テームで勝敗などは問題にならない。

全立大は一寸目新しい感じを抱かせるテームで  
 ある。キックエンドラツシニをやつて居ると言う  
 だけあつて全員がキックもよく又よく動く、併し  
 テームプレーとして粗雑未完成の感は勿論まぬか  
 れず、唯ベツクスからのパスの角度とそれに伴う  
 FWの動きがやゝ板に付いていると言ふ程度で何  
 れにしても批判は將來にまたざるを得ない。但し  
 最後の寄せに於けるセンタースリーの球への着き  
 方は見るべきものがあつた。

X X  
 盛岡は工藤猛コーチのテーム丈あつて正しく

蹴り正しく動かんとしてゐる氣組にうなづかせる  
 ものがあり、RI、CFなどの高校選手は歴然と  
 した上達の跡を示している。

X X  
 開會式の時、盛岡テームの先頭を銀髪をなび  
 かせて昂然と歩く老選手工藤孝一の異様なニホ  
 ーム姿を見出した時小生は涙を止め得なかつた。  
 昭和八年覇業成らずの恨みを抱いて早稻田を出  
 た彼は一旦職を大阪の地に得たけれども間もなく  
 彼の姿は東伏見の早大グラウンドに見られた。止  
 むに得まれぬ球への執着とも又東伏見の土が彼を  
 呼んだのだとも言えるかも知れないがともあれ自  
 己の爲し得べからざりし蹴球技への希念が再び彼  
 を東伏見の人たらしめたのであらう。

そして彼の悲願から早大の黄金時代が現出した

決して嬉しい存在でない事も間違ひなからう。

(川本泰三)

岡)	又 山浜	廣川	實村	木上	壘地		
(盛)	川 魚	諸 鈴	藤 鈴	田 佐	井 八	菊	0 21 27 0
大)	GK	FB	HB	FW	CK	FK	GK
(立)	城 泉	村 吉	上 田	林 潔	下 村	7 5 2 33	
	玉 小	島 鈴	村 村	高 鈴	竹 竹		

慶大BRB順當に勝つ

松山商大格違いで敗退

慶大BRB  $\begin{matrix} 10 \\ 5 \\ 0 \end{matrix}$  |  $\begin{matrix} 0 \\ 0 \end{matrix}$  松山商大

一回戦の第三試合は昨年度のランナラツプ慶大  
 と松山商大の顔合せとなつた。その組織力にお  
 いて個人技において到底同日の比でない松山は、慶

大の亂射三十九本を蒙り、その中十のショットが  
 ゴールを割るという段ちがいの試合を演じて敗れ  
 去つた。

試合は固くなつた慶大現役選手の粗雑な球扱い  
 によりキックオフ後の十分間は、双方一本ずつの  
 ゴールキックで相對化する形勢であつたが、十四

分にいたり慶大はCFからのパスを渡邊がきめると、十六分二宮、十八分渡邊、二十七分篠崎、三十一分渡邊と前半五つのスコアを挙げ一方的にゲームを進めれば、松山も懸命な突進でハーフラインを突破するがシュートまでは行かず、後半につて二分二宮、八分重松、十三分二宮、二十二分篠崎、二十六分二宮と合計十ゴールを挙げて完全に壓倒してつた。この間慶大はGK僅に三本、CK十二本をあげ、シュートの数は慶の三十九に對し松山は零という記録的な一方ゲームでタイムアップとなつた。

松山は側人技に於ても未だ相當に研究の餘地があり、國體出場の松山サツカーに比してもなお四五点の開きがあるように見えた。

## 早大W M W 完勝

### 北海道に欲しい緩急

早大W M W  $\frac{8}{4 \quad 4} \frac{0}{1 \quad 0}$  札幌クラブ

LW加納兄の幻妙不可思議、緩急自在の好プレーに依るもので、FWラインとしての纏りは薬にしかくとも見當らない。中盤に於けるパスワークの中絶は、CF桑田のトラッピングの拙劣に起因する所多く、ゴール前に於ける無力は右側加計、加納弟の寄せの鈍さによるものと言へる。四名の学生FWプレーヤーはパスを受ける瞬間の豫感(山勘ダツシユ)に欠くる所多い爲、二回と續くパスワーク無く、線香花火的な拙攻振りであつたが、FWプレーヤーとしての柔軟な身ごなしを修得しなければ、何日迄も鈍重な駄馬のせしりを免れない。加納兄は流石代表選手だけあつて、一段とずば抜けたプレーを示して居たが、後半中央に入つて相手ベツクスを巧みな左足のスピン・トラッピングで抜き去つた邊り、印象的好プレーであつた。

ベツクスは相手の弱さに救われてボロを出さずに済んだが、間の詰め方、追込み方、當りの激しさに一段の錬磨を要する。

總體的に見て基本となるべきキック法にも變化

この日のBRBベツクスはGK及びRF土井田を除きことごとくレギュラーの選手を休ませ実力も劣つていたので、松山の実力がそれ以下であつたので、シュートの敗北に終つたのは致し方がなかつた。(宮本)

(慶大BRB)	(松山商大)	
津田井	河井	GK
上小田	泉崎	FB
田村岩	中兄	HB
篠渡二宮重	野智悦崎	FW
	河武岩島	CK
	河武岩島	FK
	河武岩島	GK
	河武岩島	Shofs
		0
		11
		16
		0
		12
		3
		3
		39

早大の勝利は個人技術の差から見て當然の結果であつた。然しながら八ゴールの内四ゴールは、

が乏しい。馬鹿力を入れて力む許りが能じやない。脚スウィングの巾を縮め、而もスピードを増したキック法、足首を利かせるスナップ法を加味しなければならぬ。

札幌FWは猪突的突進力を持つ者も一人位は居たが、支援者絶無のため相手ベツクスを苦しめる迄には至らなかつた。ベツクスはアタックやインダーセプトの積極性無く、さながら田甫の案山子然たるものだつたが、GK天野は相手FWの矢繼早の襲撃に面して多忙の七十分間に數回果敢なセッピングを示した。(工藤孝一)

早大W M W	札幌クラブ	
三井	野林	GK
青渡	見見	FB
小田	上下妻	HB
小宮	藤利免川木	FW
加納	伊毛定早高	CK
加納	伊毛定早高	FK
加納	伊毛定早高	GK
加納	伊毛定早高	Shots
		9
		5
		2
		26
		2
		8
		28
		3

# 刈谷國體の復仇ならず

## 仙台悠々勝ち進む

仙 台 4  
3 | 1  
0 | 1 1 谷 刈

刈谷仙臺は去年の國體で二回戦に顔が合ひ、刈谷は蹴球の町刈谷全市の聲援も空しく、遠征の仙臺に敗れ去つていて、今回は全く立場を逆にしての一戦だけに、そうやす／＼とは負けられぬ試合であつた。

國體の刈谷は、オール愛知の名にふさわしい名古屋刈谷の混成軍であつたので、個人的には強いメンバーの獲得に成功しても、チームバランスの上からはプラスかマイナスか判然と言ひ切ることはむづかしい状態であつた。今度のチームは純然たる刈中クラブの面々であるだけに、その力はむしろ去年以上のものがあり、一方むかえ討つ仙臺サツカも、その後の練習で相當な進歩をとげているから、この試合は遠征の不利を除けば、

はじめて刈谷陣に進出したが、十六分に左側にCRを得て佐藤良がキックすると、このボールが深すぎた物になりそうもなかつたのをRHの岩沼男が巧にチャージボールを上げ、ゴール前でちよつともみあつた末、RI鹿井よくせり勝つて刈谷LF神谷のタツクルを左に外してブツシュなり、こゝで漸くタイとなつた。

その後は前半の終りまで、仙臺やゝ優勢を保持しながらお互に得点までには至らず、文字通りの一進一退であつた。

後半にはいと、仙臺は俄然前半の守備體勢を變えて攻撃中心のフォーメーションをとるようになり、四分、まずCF佐藤のシュートがもつれ、出た球をLW佐藤良ブツシュして2—1とリードをうばひ、その後はほとんど刈谷陣で戦つた。仙谷はCH加藤修の粘着力ある好守備に、容易に

五分五分の形勢にあるものと豫断された。

試合は微風の風上に刈谷が位置し、仙臺のキックオフで開始された。國體樂勝に氣を許したか、前半三分で仙臺陣に突入した刈谷RW天野からの送球を仙臺佐藤哲アタツクの時期を誤つて刈谷LI井田にきれいに外され先取得点を與えた。この一点は仙臺にとつて全員が奮起する刺戟となり、六分頃まで盛に刈谷を壓したが、FWの戦列が揃わずにボールが流れたり、バックスのフィードが徒らに大きくゴールアウトに終つたりして、何れも物にならなかつた。その後七分から十三分頃までは再び刈谷が試合の主導權を握つて、盛に仙臺を壓した、仙臺には七分から十三分までに五本のゴールキックがあつて、この頃までは刈谷六分の優勢であつた。

仙臺はこの苦境を切り抜けると十五分になつて

はそれ以上のリードを許さなかつたが、そのFWが球にあまりにも執着しすぎ、却つて相手方にタツクルの機を與えていたのは敗因の一つに數えられるのではないか。

その後は刈谷チームに遠征の疲労が見えはじめ、二十四分仙臺鹿井にドリブルシュートを許して、3—1とされてから全く勝味を失ひ、國體の復仇ならず、又もや仙臺の勝利に終つた。

(宮本)

(刈谷)	瀨谷信木修昭	野本恒田	
(刈谷)	間壁神鈴加加	大山神井	
GK	藤哲坂	勇崎昭	水井力來良
FB	藤岩早	岩岡佐	清鹿佐根佐
HB			
FW			
CK	6	5	8
FK	9	9	5
GK	9	9	5
Shots	17	17	5

# 低調な中國、北陸

## 岡山僅にせり勝つ

## 岡山大學 1—0—0 富山サッカー

一回戦の最終試合は、時に五米を越す風速の中で、大部分の観衆がいなくなつたスタンドから、もう／＼たる砂塵を浴びながら行われた。兩軍共基礎技術が相當低く球扱いが甚だしく不自由で、サッカーの醍醐味からは、相當遠いゲームであつた。岡山の一点は後半三分にL I國塩がベナルテイエレアにかゝろうとするあたりで、先進していたR I若井に送つたパスを富山F B松下、金井ともにタイムイングを誤り、若井に外されてフリーシュートされたものである。

記録に表われた通りシュート数は十六對三と歴倒的に岡山に多く、いづれは岡山が勝つであらうと考えられるような試合であつたが、富山C Hの

### ● 二 回 戦

## 葦崎勝利への意欲不足

### 全関学鴉田、不運の故障

#### 全關學 2—1—0 葦葉クラブ

この試合は常識的に云つて全關學が勝つのが予想されていた。何故ならば葦葉に比べ關學は何人も全日本代表級選手を有し前年度の優勝チームであり、且つ関西蹴球界の名門でもあるからであつた。

この常識的な豫想の通り、2—1—0で關學が勝つた。相當の得点差をつけられるのではないかと云う豫想に對し、2—0で終つた事は、關學の不調と葦葉全員の好防の結果であつた。しかし關學が得意のショートパスと鋭い突込みを見せ、同時に葦葉が攻撃は最大の防禦なりと云う事を考え捨身の戦法で戦つたなら、面白い試合となつたであらう。この一戦もそうであつたが、現在の蹴球界で今一度考えなくてはならぬのは、個人技術と戦術の問題である。

即ちチームに必要なものは、まず體力次に精神、第三に個人技術その上に戦術の問題があると云えよう。體力精神力は關學、葦葉共に特に差

島倉よく頑張つてリードを許さず、加うるに岡山のシュートは何れも貧弱で、決定的な力を伴わなため、凡戦の典型的なものとなり、目もあけられぬ砂塵と相まつて文字通り砂をかむような試合であつたが、その結果はけだし順當であつたといえよう。(宮本)

岡山大學	富山	サッカー			
福藤宮	濱全松	崎井下	浪倉谷	山原野	岡久
中佐馬	GK				
齋若久國太	FB				
	HB				
	FW				
	CK	2	11	15	
	FK	2	9	7	
	GK	2	9	7	
	Shots	16		3	

があるとは考えられない。個人技術、戦術は明かに關學に一日の長がある。問題はこの二つの技術の程度如何と云う事である。個人技術は個々のキツキング、ストツピング、パスイング、シュートイグ、ヘディング等だけをとり上げて見れば、確に上手な選手も居る。但しこれはこれらの技術を静止状態で見ただけである。例えばセンターリングそのものは上手であらう。ところが試合は生きて居り動いて居る。これらの技術が本當に生きるか死ぬかは敵の能力、ボールのスピード、味方の態勢、等々のあらゆる條件中に、それに一番適した早さと角度と時間に如何にプレーするかどうかと云う事で決まる。この点では關學も死んだプレーが多い。

次に戦術の問題であるか、未だ戦術らしきものを知つていないといえる。以上の事が殆んどすべてのチームに就いて云えるというのが、蹴球界の現状であり、云い換えれば弱点である。ここに葦葉の喰い入る餘地があつた筈だ。即ち葦葉が烈しい動きと遅しい精神力で關學に







するなら記録的な大差で敗れるのではないかと見られた。

福島主審の笛が鳴つて風下に陣した大阪のキックオフで試合がはじまると、富山は昨日に比し格段のうま味あるゲームを展開し、大阪方バックスの油断に乗じて鋭いアタックを敢行し、最初の十分間は殆どタイに戦つたのはえらかつた。

前半十七分、ハーフライン附近で大阪RW大谷に球が渡り、大谷→賀川でバスのやりとりの後、賀川大きく左に蹴つて和田に渡し、和田の折り返しがCF岩谷にとどくと、右から左に大きくゆすられた直後だけに富山ベックスはほどこす術なく岩谷強蹴して先ず一点をあげた。ついで二十三分川本の好パスを和田受けてCFへ、CFから更に右翼へ流れ出るとRW大谷左足でクリンシュニウトすればこれが美事な得点となつて2-0のまま前半を終つた。

後半にはいつて一分、大谷→川本で川本のシュニウトなり、二分LW→LH→で岩谷シュニウト、三分川本胸のすくようなロングシュニウトを放つとあ

● 準決勝

關學主力欠場して敗退

慶大樂勝して王座に近づく

慶大 4 1  
3 0 0 關學

関大は昨日の準々決勝でFWの主力梶田(CF又はRW)が左足首脱臼で欠場した上にCF樽谷も傷ついてインナー専門の工藤をCFに起用するのやむなき次第であつたが、たのむ工藤も前半二十二分のキーパーチャージで右膝を痛めその後の戦闘に参加し得ない有様となつては、勝利への望みは殆ど断たれたも同然の有様となり、戦線は全く亂れ、思いつきと偶然だけで試合を進めざるを得なくなつて完敗の憂ひをみたのは致し方なき次第であつた、慶大もGK津田が珍らしく再三にわたつてハンブルし、ふだんの安定さを欠いていた

まりの球勢にGK福田キャッチしそこねてゴールイン、以後七分賀川、十七分大谷、十九分川本、三十一分和田と大阪全く無人の境を行く勢を示して大勝した。

岡山とすれば所詮勝てぬ相手だけに、せめて一矢をむくいたいところではあつたろうが、あまりにも格ちがいのためそれすら思うにまかせず、零敗に終つたのは氣の毒であつたが、全員最後まで試合を棄てず、どこまでもフエアに、しかも眞面目に全力をつくして戦つた態度は実に立派という他なく、これは勝敗を越えて稱讃されるべきである。(宮本)

(大阪クラブ)	田原本	藤木場	藤井村塩田
(岡山大学)	福藤	中佐馬	齋若田國太
	GK	FB	H B
	田川木	健形江	谷川谷本
	津小南	三山阿	大賀岩川和
			1 2 7 33
			Shots

ようだつたがこの虚を突ける程のFWがいらないので危いながら破綻までに至らなかつた。

慶大はあたりの出ているC H松岡、W H植村、黒沢のHBラインが健闘して関學の散発的ではあつたが鋭い攻撃をしのぎ切つてシャットアウトの偉勳をたてればFWもCFに一枚加つた二宮(アジア大會代表)が昔變らぬスピードで華麗なパスワークの軸となつてポイントを重ね、慶大完勝の主因を握つた。

関學とすれば豫測しないアクションのため去年のこの大會の報復をうけざるを得なかつたのは心外の限りであつたにちがいない。それにしても廣島高師附中以來の名RW木村が



●三位決定戦

全關學貫録勝

仙台歴戦の疲労に潰ゆ

全關學 4  
 1 1  
 3 2 4  
 1 1  
 2 1  
 4 仙台サッカー

二回戦に早大W.M.W.に力戦更に準決勝に於て、

大阪クラブの快技に奔弄され疲労の色濃い仙台では、故障者續出とは云え、前年の覇者の全關學には苦戦は免れまいと考へて居たが、始つて見ると鹿井、佐藤(力)根來等のFWが良く動き又、岩沼勝、岡崎のバックが敵FWを押え案外面白いゲームとなつた。

特に前半一点先取し、地元應援團を湧き立たせ更に敵FWの反則にメナルティキックを得たときは最高潮となつた。勝負は此の邊が山で、根來が此のメナルティを凡蹴して無爲に終り、其の直後

開學に得点され、其の後には追付いては点を取られ最後の頑張りも遂に追付けず、三位決定戦を失つてしまつた。

一方開學は緒戦に鶴田を失い、更に對慶應戦に工藤が倒れ、駿足木村も負傷の爲思ふ様に動けず瀬戸一人に頼る外なき有様で、戦意に欠けて居た感があり、意外の苦戦となつたが、ゲームの運び方に一日の長が有り、辛くも逃げ切つた。後半右からのセンターリングを良く追つた瀬戸が、ゴールアウト寸前ヘディングで中へ返し、軽くアツシユした得点振りなどは、矢張りさすが開學と云う感じがした。

得点が接近し追いつ追われつ大接戦とはなつた

が、試合内容は餘り「バット」したものでなく主力を失つた開學FWの動きもバラ／＼で、單に瀬戸の巧技が光るのみバックも仙台の鹿井に、グル／＼まわされ日頃の生彩を欠いていた。一方仙台は鹿井の「タフ」な動きが目に付くのみにて主將の根來に國體當時の元氣が無く、CF佐藤も良く突込んで居たが得点能力に乏しく、バックととも岩沼、岡崎の長身を利しての奮闘意外は見

るべきものなく、此處迄開學を苦しめれば寧ろ善戦と云えよう。

開學にとつては全く不運な大會で、故障者續出し殊に主力二人を負傷に失つた事は、チームの士氣に大きく響き三位に留つて仕舞つたが、順當に行けば決勝迄出て來たと考えられる。然し一般に元氣に乏しく、日頃の開學の闘志が見られなかつたのはどうした譯か、特にG.K松田の不振は全く意外であつた。

仙台が國體に引續き、三位決定戦迄進出した事は、地元サッカー界の爲に大きな刺激となつた。大會則合宿して本大會に備へたとの事だが、其の

猛練習の効果は地元の熱烈なる應援に開志を奮い起し、堂々早大W.M.W.を倒すの偉勳を立てた。鹿井の精力的な動き、長身の岩沼勝、岡崎等の活躍は特に印象に残る。(村形繁明)

(全關學)	(仙台)	カ	サ	カ				
松	田	伊	伊	崎	勝	浦	力	來
中	垣	早	早	坂	勇	井	力	來
岡	兄	岩	岩	沼	勝	浦	井	力
村	弟	佐	佐	沼	藤	井	力	來
神	田	三	三	藤	藤	井	力	來
山	村	鹿	鹿	三	藤	井	力	來
木	上	佐	佐	鹿	藤	井	力	來
井	谷	根	根	佐	藤	井	力	來
樽	田	久	久	藤	藤	井	力	來
柴	戸							
瀬	村							
	上							
	谷							
	田							
	戸							
	0							
	6							
	9							
	11							
	15							
	Shots							
	PK							
	CF							
	FG							
	GK							



(開會式における仙台サッカークル根來主將の宣誓)

# 激闘百十分、慶大宿願の優勝

## 滋味あふれる大阪の攻撃

開始早々四分に大阪LW和田のフルブルシニートで一点を挙げ、二十分頃迄は慶大はぎこちない戦い振りなのに反して大阪はのびのびを自己のペースで試合を進め圧倒的な戦況に終始した。然るに二十五分頃慶大二宮がキーパーの出過ぎを衝く好シニートに危うく得点を思わせることがあつて後は慶大全員直り前半終了直前LW重松のドリブルシニートで一点を返し一対一のまゝ前半を終つた。

前半戦の終り頃から大阪には疲労の色が現われ後半の苦戦を思わせるものがあつたが、再開後十數分は對等の戦況に進み十八分川本の好シニートで再び得点をリードした。その直後にも川本の獨走からのシニートがあつたが僅かに外れ、二十一

分に至り慶大LWIR一CFと渡つて二宮のシニートが成功して再び同点となつた。其後の戦況は慶大の攻撃が整うにつれて大阪守備陣は疲労の色が濃くなり、徒らに蹴放す爲へッデインの弱い大阪FWにはフィードとならず球を拾う事に精力を費して得点に迄結実し得ず、慶大の攻撃も二、三の決定的に見える機会を逸して對のまゝ九十分を終つた。

延長戦開始後二分、慶大はRWICFWLWICFと鮮かなパスワークで機を迎え二宮の好シニートで決勝点を挙げた。多くのチームが縦の遠さのみに頼る攻法を脱し切れないのに反して此の得点は、大きく且敏速に右、中、左、中と廻して大阪守備陣を左右に分散させ薄い隊形に追込んで

突込むと云う戰術的に見事な展開を示したものと云うべきである。川本をはじめ大阪のFWが優秀な個人技を基礎にして中盤では大きく動かずに球をキープし型に扱われず緩急、抑揚をつけ機を見て急攻に移る手法には近年稀な滋味を感じさせるものがあり學ぶべきであるが、それと共に一見しては對照的に二宮を中軸とする慶大のこの第三得点の経緯に現われた組織的な攻法は他チームのみに参考とすべき模範であらう。而してそれ等の根柢にはトラッピングと體のこなしの妙味があることを記憶すべきである。

三對二となつて後は大阪守備陣よりのフィードは益々荒れて蹴放す感じが強くなりそのFWの最後の猛攻も結実せずに終つた。この大阪守備陣の亂れと、開始早々の慶大學生選手の萎縮とを除けば此の優勝戦は殆ど非難さるべき点のない力のもつた立派なものであつた。

今回の大會には兩チームの他、關學、仙六、全立大、WMWと強力なチームが揃い、川本二宮等超ベテラ級の活躍及二三年後には相當優秀

な選手となると思われる新人も見受けられて、前年の大會に比較して内容が一段充実した感があり又それに相應しい立派な優勝戦の行われたことを喜ぶものである。(竹腰重丸)

### 全日本選手権大會優勝戦スコア

大B	田	邊	岡	村	嶋	川	宮	角	松
(慶大)	津	井	土	長	田	松	植	竹	早
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK	Shots	9	10
(大阪)	本	川	木	木	形	江	谷	川	谷
岸	小	南	三	山	阿	大	賀	岩	川
和									

### 御断りとお願ひ

本誌も誤植が多く、お読みにくいことと存じ、大変恐縮に思つております。これは全く校正技術の拙劣に起因するものでありまして申譯ありませんが、次號からは一層の注意を拂つて完璧を期したいと存じておりますので何卒今後共御愛読下さいませうお願い申し上げます。(宮本)

# 田邊製藥堂々の連勝

## 第四回全國實業團大會

本協會並に朝日新聞社共同主催の第四回全日本実業團選手権大會は、五月三・四・五・六の四日間西宮球場に全國十代表チームを集めて舉行、前年度優勝の田邊製藥は、加藤、賀川、和田、鶴田、宮田等のニューデリー日本代表選手を擁して堂々二連覇の偉業を達成した。

### ●一回戦

津田 弘

田邊製藥 9 6 0 0  
3 0 0 トヨダ

「前半」キックオフと殆んど同時に田邊はボールを得、3分LH先取得点を擧げ、爲にトヨダはやゝ攻撃力を減殺された様だつた。一方田邊フオワードも持ちすぎのためトヨダバックスにつぶされ殆んどトヨダゴール前で混戦を續けられ乍ら得点に至らなかつた。「12分」LH、「24分」RHとリーグシュートきれいに決つてより試合は益々一方的となり前半田邊は6点を擧げた。

「後半」田邊は更に3点の追加点を得、試合は9-0と田邊の歴勝に終つた。

トヨダは実力の差で敗れたものゝ今一息の熱意があれば此れ程の大差はつかなかつたであろう。

(田邊製藥) (豊田自動車)

谷 橋東	口川坂	田卷井本藤			
石 高伊	山中保	成藤藤山加	4	4	27
GK	FB	HB	FW	CK	FK
				GK	GK
田 水原	村藤田	本川田藤田	2	2	4
津 乘松	岡加宮	藤賀鶴近和			

大阪府庁 兼權 三菱電機  
郡山工場

### ●一回戦

於 西宮第一グラウンド

田邊製藥 2 1 1  
0 0 0 0 0 2  
2 茨城日立

試合前より此の大會中で最も型破りなチームである事は知つて居た。

豫想通りキックアンドラッシュシユの戦法をとり、

體力にまかせて蹴り廻る。

試合は粗末なものとなり、田邊は前後半一点づつ、日立は前半で二点と同點のまま延長戦に入り引き合けとなつた。

相手に危害を與える事は平氣と見え、一應姿勢を低くして居ると、胸肩と處かまわず蹴り廻る。此の試合中最も不愉快に感じた事は、悪言を口にする事だ。事もないのに「ハンド」「オフサイド」と云い、自分の事を棚にあげ「チャーチ」と云ふ。「のぼしちやえ」「蹴つちやえ」と全くの悪言をばく。これでは何處にフェヤブレの精神があり、開會式の選手宣誓の言に添つて居るのかと疑つた次第である。此のやうな試合に際してもつと嚴密に審判して、その行爲及び言語に對して、あらためさせる事が必要だつたのではないだらうかと思つた。

いくら地方に遠征し講習會を行つても、試合に於いてあれでは何もならず、地方サッカーの發展を拒むものではないかと思ふ。

地方サッカーのために最も考へる必要があるの





立バックに潰され絶好の得点機を逸す。以後風下の日立はFWの確實なパスにて絶えず優位にあるもダンロップバック陣に執拗に喰下られ追加点をあげ得ず、23分漸く疲労の色見えた相手のミスキツクの球をCFとりRIに渡しシニート成り、3對0にて日立に凱歌あがる。

本大會出場一〇チームの内有名選手を一人も擁せず専ら練習にはげみ強豪日立と茲迄善戦したダンロップチーム全員に對し深く敬意を表すると共に、斯うした実業團チームが次々と生れることを望む次第です。

(ダンロップ)	井 森	尾 本	口 井	GK	FB	HB	FW	CK	FK	GK	PK
	瀨 光	岡 井	本 岡	尾 本	井 原	島 久	田 浦	2	3	16	0
	葛 酒	原 島	久 田	浦 2	3	16	0				
	萩 池	和 飯	三								

(大阪府)	元 野	川 木	井 島	山 形	邊		
(八幡製鐵)	田 藤	本 岡	野 原	山 川	西 入		
	守 今	原 播	福 大	椋 柴	黒 寺 家		
	GK	FB	HB	FW	CK	FK	GK
	1	9	4	1	9	4	

よく勝利をつかむ事が出来た。

● 準決勝

木 下 勇

田邊製薬 1 | 1 | 0 | 1 | 東洋工業

準決勝の第一試合は五月五日午後一時から西宮第一グラウンドで行われ、トスで勝った田邊製薬が前半、後半とも風上に廻つて優位な地歩を占め二對一で決勝に勝ち進んだ。  
東洋工業にとつては第三回全國實業團大會でも今回同様準決勝で田邊製薬と當り、五格の勝負を

南 木 登 久

大阪府庁 1 | 1 | 0 | 0 | 八幡製鐵

FWに決定力を欠く大阪府廳に對しLI寺西を中心に小粒ながら全自負らなく動く八幡チームの方が六、七分迄優勢であると思われていたが試合の豫想に反し大阪府廳は苦肉の布陣とバックスの固い守りに強敵八幡製鐵を下し得た、即ち府廳はバックの山形をFWにあげ、その廣い動きによるFWラインの強化をねらつた。前半兩軍無得点に終り、後半に入り十七分大阪府廳はCH南木飛び出してボールを拾い、山形—南木—LW河邊と渡つた球を河邊美事極めてリード後八幡しばしば反撃を試みるもCH南木LB齋野にガツチリ押えられ頼みとするRI寺西亦LH瀬川の固いマーを外し切れず全然決定的なチャンスを作り得なかつた。兩軍共盤てよく動きボールを廻していた割にゴール前のチャンスもなく徒らに一進一退を續けたが結局大阪府廳がその少ないチャンスをものにし、

RBの自爆に1對0で惜敗した相手で、本年は是非でも雪辱したいところ、他方田邊製薬としてもニューデリー行きの選手を五名も擁していて負けれない試合だ。

前半トスに負けた東洋工業は風下の濱側に陣してキツクオフ。田邊は國際級の三名をセンタースリーに並べ中央突破の策に出た。この策が東洋の意表に出て效を奏し、七分中央を抜かれた東洋の水田が懸命にバックアップし、田邊のLI和田とせり合つたが不覺にも自陣に蹴り込みGKの逆をついて一点を献上してしまつた。この一点が昨年同様東洋工業の命取りになるとは思わなかつた。

東洋は前日の對三共戦の疲労が回復しないためか、出足が鈍く、FWにキープ力なく中盤での球を殆んど田邊に拾われ苦戦を續けたが、バックの強引なつぶしは依然本大會隨一で、流石の田邊のセンタースリーもチャンスがつかめず、又折角のシニートもGK下村に名を成さしめるに止まつた後半九分たてつづけに五、六本のシニートをは

なした後のこぼれ球をR I賀川強引に引かけて2  
 ー0對と引離し不敗の態勢を整えたかに見えたが  
 東洋よくねはり、タイム・アツプ三分前にR I小  
 畑からのクロス・パスをRB木下カットに出よう  
 として目測を誤り、L W鳥村に廻り込まれて、右  
 上隅に絶好のシュートをされ2對1と追いつき、  
 その後東洋必死の攻撃もカンのよいCH加藤と馬  
 鹿當りしたLB松原の好防に阻まれ、遂に返り討  
 ちになつた。

ベツクに宮田、加藤、木下等の大物を配した田邊  
 に對し、小畑一人の東洋のFWではシャット・アウ  
 トを免れただけでもその奮闘は賞讃されてよい。

(東洋工業)

村田野 藤井橋 山畑田村村  
 下水芳 伊濱高 羽小畑高島 4 4 15  
 GK FB HB FW CK FK GK

(田邊製藥)

田下原 村藤田 藤川田田田 3 1 5  
 津木松 岡加宮 近賀鶴和種

山形 寛

日立本社 3 1 0  
 2 1 0  
 0 大阪府庁

前半、南木をCHにして前日一應成功をおさめ  
 た大阪府廳は前日と變らぬ陣容で戦を進め、前半  
 風上の有利な態勢を占め乍ら日立インナーズリー  
 の激しい動きに壓倒され、中盤でのキープ全然な  
 く唯原始的なキックアンドドラツシュエで反撃するよ  
 り手がないフオワード陣の態勢では全く手も足も  
 出ないのが當然といえよう、日立はCF松永を中  
 心として強力なヘディングに一應大阪を壓しながら  
 大阪ベツクス必死の防戦に得點するに至らず十  
 八分日立は左コーナーキックを大阪キーパー稻元  
 のハンブルに乗じてR I高橋突込み得點、そのま  
 ま前半を終る。

敵に先取點をとられてはFWの弱い大阪に全く  
 勝みなく終始日立に壓倒され後半十五分左よりの  
 絶好のコーナーキックをGKバンチするも弱く、  
 RWの前にぼつんとおちそのまゝRW決めて得點

これで全く勝負は決しそれ以來大阪は積極的なハ  
 ーフのホローに捨身の攻撃を續けるも決定力なく  
 かえつて日立の逆襲に三十二分一点を加えられ三  
 對〇となりそのまゝタイムアップ、メンバーの編  
 成に苦心した大阪も結局ベツクスをかためた方が  
 よかつたらう。日立順當の勝利といえよう。

(大阪府廳)	(日本本社)
元 野 野 川 木	本 島 本 口 島 田 敏
稻 山 數 瀨 南	奥 川 林 吉 畑 勝 西 高 松 高 佐
濱	永 矢 大 山 河
	井 島 山 形 邊
	4 1 20
	GK FB HB FW CK FK GK
	11 2 3

賀 川 太 郎

優 勝 戦

全日本実業選手権大會最終日、大阪の田邊製  
 薬對東京日立本社の決勝戦は五月六日午後二時よ  
 り日本晴れの西宮競技場で舉行され、豫想通り田

邊製薬が優勝した。

田 邊 製 薬

3	1	0
2	0	0

日 立 本 社

全日本代表選手を五名も擁しその他数名の優秀  
 選手を持つ田邊製薬の優勝は最初から確実視さ  
 れていたが、第二回戦に茨城日立との接戦を演じ  
 抽籤勝で辛勝して田邊危しの感を與えた然し翌  
 日の對東洋工業戦には2—1のスコア乍ら確実  
 なところを見せていた、之に對する日立本社は  
 松永、堀口等の新人を迎えて今年度初めて全國大  
 會に出場したチームであるが、大阪府廳に3—  
 0ダントツに3—0と勝ち進んで来ただけに  
 田邊にとつても苦戦は免れまいと思われた、然し  
 蓋をあけてみるとFWに於ては兩者は略互格と見  
 られたが矢張り松永一人に頼る日立FWは鴛田、  
 賀川、和田のトリオに一步を譲らざるを得なかつ  
 たが、これは兩軍のベツクを比較して田邊に加藤、  
 宮田、岡村、木下等のメテランが揃つているのに  
 對して、日立は堀口一人の活躍に頼らねばならな  
 かつたところにも、大きな原因があつたと思われ

る。

前半田邊はRW鴛田の駿足を利用して右サイドから攻め立てたが日立C日堀口の好守にはまされ右サイドに主力を固めたため鴛田よりのセンターリングを左サイドでの突込み足らず屢々得点のチャンスを選していた、二十分鴛田が右から切り込んでセンターリングしたのをCF和田ひつかけて先づ一点を先取、日立も松永を中心にLI高橋の廣範な動きによつて田邊陣を脅かしたが得点に到らず前半を終つた、後半兩軍稍連日の疲労が出たかと思われたが田邊は賀川鴛田のコンビと和田の中央突破力とを利して更に二点を加え、試合は決定的となつた。

新進日立本社の健闘は賞讃に値するもので、よく最後迄試合を捨てずに忠実に動いていたベックスに今一息の粘りがあれば田邊としてもつと苦戦したと思われる、実業團チームとしては最も洗練されたチームの一つであると云えよう。ともあれ田邊製菓が二年連覇を遂げたことは讃えられるべきであろう。

# 欲しい品位ある試合態度

## 予選割りにも再考の要

——第四回實業團大會雜感——

大 谷 四 郎

編集者からの注文は第四回全日本實業團選手權大會の大観?ということである。突込みようによつてはいさゝか難しい問題でもあるが、機關紙の復活は批判の好箇の機會を提供したわけでもあるからこれを利用して極力第三者の立場から思い付くまゝに述べてみよう。

x x

◎大會の運営……こゝでは資金面の問題は別にしておく。事前の準備、大會開始後の運営など大體スムースに運んだと思ふ。しかし勿論百点ではない。大會要綱は三月下旬各地協會へ配られた。

(日立本社)	本 本	田口島	本橋永橋藤
(田邊製菓)	GK	奥 吉林	西堀勝 岡高松高佐
	FB	田 下村	原藤田 田田川藤田
	HB		
	FW	津 木岡	松加宮 鴛和賀近種
	CK	11	6
	FK	0	0
	PK	11	
	GK		

### ◎お断り

編集の都合で「サッカーいろく」、「蹴球人の横顔」を割愛いたしました、御諒承下さい。

そうして代表決定は四月十五日までとされていたが、どうしたことか関東・中部地区は二十九日まで遅れた。おかげでプログラム作製や大會豫想にも困つた。豫選地域の分け方にも関係しているだろうが協會内の連絡や準備も不十分だつたと思ふ。五月初めに全国大會が行われること、豫選地区割り、主管協會などは昨年の全国評議員會で決つていたと聞いているが、各地方協會では豫めスケジュールに入れて、たとえ日本協會からの要項送付が遅れても自動的に動けるようにしてほしい。このためには日本協會も全国的行事につ

いては出来るだけシーオンの初めに骨子を決め各協會で知らせておくことは必要だ。

◎將來の在り方：豫選地區割りや代表チーム數の問題だが、実業團サツカーは今や發展の途上にあつて情勢は年々違つて來ているからまだ恒久的な規定を作るわけにはゆくまい。豫選地區も増し代表も十六チームぐらいになることは全国大會にふさわしい理想だが、出場チームが餘り實力のかけ離れたもの集りになつてはかえつて大會の興味を殺ぐことにならう。だから内容の充実と考え合せて變えてゆけばよい。東海北陸地區豫選での北陸の不參加、本大會での東北・北海道代表三菱電機郡山の棄權は理田は知らないがとに角淋しかつた。特に後者の場合何か採るべき方法はなかつたのだから。

◎選手の態度：年々よくなつて來たが、まだ試合中言葉が多くてやかましい。ことに品位のない言葉もなきにしもあらずだつた。「やつつけろ」「足を蹴れ」などが時には聞えた。こんな闘志は歓迎出来ない。又「ハンド」とか「オフサイド」

によると廣島の他のチームとは四点前後の差が開くらしい。四國は中國・四國地區決勝で東洋レィオン(徳島)が東洋工業に13——0で大敗している。東海はトヨタが日紡大高工場と5——1で樂勝しているところからみるとまだ遅れている。九州は七チームが參加得點の上からは八幡製鐵、日本化成、日鉄三瀬、日本窒素は大差なく、他が三、四点の差となつているから割合に平均している。關東は茨城日立が強く、中部の日本輕金屬清水と3——0だつた。さて代表チームをA、B、C、に分けて比べようとすると、A級は田邊、東洋工業日立本社、B級は茨城日立、三共、C級はその他となるが、その差は得点差にも示されていのように接近して來た。

◎ベストイレヴン：こゝでベストイレヴンの注文があつたがなか／＼難しい。大會中の試合だけしか參考に出来ないし、ポジションも從つてこの試合中のものに限定しなければならぬ。ある選手は平常も見て來たが、ある選手は大會中だけしかみていないからしかもチーム編成上優秀な選

とか審判を牽制するのも不愉快だ。またフアウルに對しフアウルでむくいるなども全く感心出來ない。總じて眞剣味というか、勝とうとする意欲は旺盛で從來よりずつと激しくなつた動きによく現われていた。実業團サツカーの大きな進歩だ。トヨタ自動車は強豪田邊と昨年同様初めから顔を合せてや／＼氣遅れしたのではなからうか。日立本社に對した大阪府應はもう少し闘志が欲しかつた。一つ付け加えて置きたいのは脱衣室の準備がしてあるのにスタンドで更衣したチームが相當あつた。たとえ觀察は非常に少くともこんなことは慎むべきだ。

◎各地のレベル：各地方のレベルは代表を通じてか、たま／＼送つてもらつた豫選記録による以外知りようもないが、優勝した田邊のいる関西豫選は參加二十四チーム(大阪、神戸のチームのみ)でチーム數は多いが田邊が群を抜き他は相當の差がある(豫選決勝田邊9——0大阪府廳)平均して東京地方が最も揃つているだろう(參加十九チーム)東洋工業は田邊に次ぐだろうが話

手は大體似たり寄つたりのポジションにいることが多いので他のポジションに移したならば結構選に入る選手でもこのイレヴンには入らない場合も出來てこようが已むを得ない。たゞインナーとサイドハーフは左右どちらをやつても同等にやれると假定して融通をつけた。こういう考えで作ろうとしたがどうも困つた。ひねりにひねつて結局次のようになつたがCFとLWがきまらない。

(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)
(東洋工業)	(東洋工業)	(共)	(共)	(共)	(共)	(東洋工業)

田邊の和田は對トヨタ戦でLWをやつたからそこに据えればCFは日立本社の松永か、しかし決勝では和田の方がCFをよくやつたので彼をCFとすればこのラインにふさわしいLWが見付からない。いや見落したのかも知れない。このほか三、

四名の餘裕を認められ、ば〇日堀口（日本本社）R H岡村（田邊製業）R W岡本（日本本社）というところ。

◎審判：人によつて判定の基準がまち／＼だといえる。一部の審判はよくなつたが、一部のものは變つていない。したがつて同性質のプレイに對して判定が違ふ。選手にとつては迷惑だ。審判はもつと勉強してほしい。主審は勿論線審も、協會は審判訓練を早く行わないとプレイの進歩を阻害する恐れがある。従來審判は公開の場所では批判されないですんだ傾向だつたが、審判技術も批判研究される機會が必要だろう。

概観して實業團サッカーも名実ともに次第に進歩向上したと確かに言える。しかし私はもつとこの分野は發達し大會も盛大になるべきだと思つている。軍隊のなくなつた今日社會人のサッカーは恐らく最も大きな分野となるべきなので、しかも現在この分野に未開の地は多く残されているから協會はどう考へているだろうか。以上いろ／＼勝手なことでも饒舌つた。大方の批判を乞いたい。

### 第四回實業團大會成績

	トヨダ	0	田邊	6
	田邊	2	田邊	1
	田邊	1	東洋	0
	田邊	3	東洋工業	0
	田邊	1	三共	0
	田邊	3	日立本社	0
	田邊	1	日立	0
	田邊	3	日立	0
	田邊	1	日立	0
	田邊	0	大阪	1
	田邊	0	大阪府廳	1
	田邊	0	大阪府廳	1

昭和二十六年六月二十五日  
 昭和二十六年六月三十日  
 發行 東京千代田區神田區河臺四ノ六  
 編輯 東京千代田區神田區河臺四ノ六  
 印刷 東京文京區弓町一ノ六  
 田邊製業

天皇杯に輝く慶大BRBチーム



寫眞說明  
 前列右から 戸井田、兩平、松岡、植村、長竹  
 後列左から 田邊、津田、二宮、竹崎、早川、重松の各選手